各種新聞圖解の内

# 日新真事誌

八年　第卅七號

天然痘の流行ゆへ。痘瘡神の開急く
軟で走り歩行るや。這所彼所あて怪しき
魔神と載る車夫のありとか。風説ハ嘘ゝ本
所ある緑町より浅草迄のせる客ハ十四五歳
ゝて。未ゞ荷も軽症き少女あり。茅町辺へ来
ア〜とき。灯と點んと車と置小戻〜る其隙ゝ。
彼の娘ハ消失て。輓の賃も紅の紙ゝて作る品
四手立〜。南無三俵の残りしのゝ。是痘瘡の尼神
あること疑あ〜と無根き。虚ゝ訛と傳る未閑
の俗民ゝ。種痘の上首を奉戴せて。可愛い子
供ゝ菊石と需め。或ハ失明ゝするあんど。家父
慈母該兄とも。合せて三人三驫鹿と書ゝ赤
紙と戸ゝ張る。愚昧と布る看板ある酒

木挽街の隠士

轉々堂主人録